

議事録

【会議名称】令和6年度 第3回朝霞地区在宅医療・介護連携推進会議

【日時】令和6年11月18日（月）15:30～17:00

【会場】和光市総合福祉会館3階 第1会議室

【出席者】別紙参照

【議題】(1)朝霞地区在宅医療・介護連携推進会議のふり返し（意見交換）
(2)その他

議題（1）朝霞地区在宅医療・介護連携推進会議のふり返し（意見交換）

議題の説明（事務局より）

本会議は、令和3年6月に設置し3年が経過しました。当初、国からの在宅医療介護連携の課題が示され、すでに4市においては連携推進会議が設置されている中で、医師会としては朝霞地区としての共通する課題に取り組む必要性を感じ、各職能団体等からのご推薦、ご協力をいただき本会議開催の運びとなりました。委員の皆様には任期も定めずに会議へのご協力をいただいているところですが、来年度以降の本会議の在り方を考える上で、推進事業の進捗状況、本会議の在り方等、委員の皆様の忌憚のないご意見をお話しいたきたい。

①各委員からの意見

■居宅介護支援事業所山吹 本多委員

以前は支援室がケアマネなどのバックアップをしてくれるということを知らなかったが、本会議を通じて支援室の業務を知り、入院先の相談などできることを心強く感じた。行政も共に ICT 活用を推進することで、MCS の普及も進み、今後もっと広がっていくと思う。また、緩和ケア推進ネットワークも発足し、4市で在宅緩和ケアに注力していることも、本会議を通じて医療と介護の連携が進んだ実績だと思う。

■でうら歯科医院 出浦委員

当初は入退院支援ルール作成という目的で発足した会議で、出来上がったルールの活用についてはまだ途中段階だとは思いますが、それを作る過程で医療側・介護側が同じ立場で議論できたことに非常に大きな意義があった。「医療・介護連携」という言葉がよく出てくるが、実際に顔を合わせて一緒に議論できる場があることを、とてもありがたく思う。

■コスモファーマシー 大谷地委員

入退院支援ルールについても、MCS の普及についても、薬剤師会は情報が遅れていると感じる1年だった。研修会などに出向いて MCS の周知等を行っており、今後はその認知度も確認しながらさらなる周知を進めていきたい。

■新座志木中央総合病院 上島委員

入退院支援において医療・介護連携をどのように進めて行くかというところで、会議のテーマになっていることを中心として進めていけばよい、という大きな軸が出来た。

MCS については広がりを感じてはいるが、さらなる普及啓発が必要だと思う。

地域と連携する上で行政との連携は必須であり、こういった医療・介護連携の場に行政が入ってくれることが非常にありがたい。

■さくら訪問看護ステーション 鈴木委員

埼玉県訪問看護ステーション協会という職能団体があるが、この地域でも登録しているステーションが少ないのが現状。地域の訪問看護ステーションと繋がるため、4市のステーションに声かけをして、賛同を得られたステーションと連携の会を作って活動している。日々行っている入退院支援・ケアマネジャーとの連携・緩和ケアなどをどう底上げするかが今後の課題であり、地域が一体となって進められるよう盛り立てていきたい。

■TMG あさか医療センター 北村委員

作業療法士会では、横の繋がりはあまりないのが現状。

職能団体としての広報や情報共有などが進んでいないので、同職種間での横の繋がりを今後作っていただけたい。

■埼玉県歯科衛生士会朝霞支部 恩田委員

歯科衛生士会として、こういった医療・介護連携の中で動くことは難しいが、本会議の中で連携の大変さ・ありがたさを感じている。歯科医師会の在宅支援窓口などもあるので、そういうところも上手に絡めるなどして、緩和ケアや看取りでもうまく歯科が関わってけると良い。

■新座市西部高齢者相談センター 稲垣委員

この地区の特徴として、4市それぞれ実情が似ているところもあれば違うところもある。

そういった中で均衡を図りつつ密に情報交換をし、共に考え、さらにそれを各市の実情に合わせてフィードバックしていくことが課題。

■志木市高齢者あんしん相談センター せせらぎ 辻委員

MCSの活用について、志木市ではまだまだ活用しきれていない。忙しい中で慣れている方法を選択し、新しいものを取り入れるのが難しい。

連携についても、自分のテリトリーの中で連携しやすい相手と連携して動いている現状があるので、こういった会議を通して顔の見える関係を作っていくのがとても大事だと感じている。

■朝霞市地域包括支援センターひいらぎの里 田中委員

MCSについて、朝霞市でもまだまだ増えている印象はないが、これから使っていこうという傾向はみられる。

病院との連携でもまだ課題が多くあるので、この会議の場で意見交換をしていきたい。

顔の見える関係が大事だと思うので、今後も積極的に意見を出し、勉強していきたいと思う。

■新座市いきいき健康部介護保険課 浦山委員

本会議において、入退院支援ルールやMCSの推進が成果として挙げられる。

地域に必ず必要である医療や介護の職能団体が一堂に会するこの場を、今後も有効活用していくべきだと思う。

地域の課題、各職能での課題を吸い上げられているかと言うと、そういった相互の意見交換が足りていないようにも感じるので、今後はそういうやりとりをさらに活発に行っていきたい。

■和光市保健福祉部長寿あんしん課 塩川委員

特色の違う4市の中における、和光市の立ち位置のようなものを本会議にて学ばせてもらっている。

行政目線で主張することも多く、職能団体での課題をキャッチしきれていないと感じるので、今後はもっと忌憚なき意見をいただき、互いに課題を解決していけるような進め方ができれば良い。

本会議での内容を各職能に持ち帰り、それに対する反応も良い面・悪い面含めて共有していただきたい。

■志木市福祉部長寿応援課 増田委員

各職能の委員の方々から現場での実情を聞き、行政としての体制作りや予算化などの面で参考にさせていただいた。

会議において顔の見える関係ができ、そこからさらに関係性を広げていくことが出来ている。

最終的には朝霞地区全体の相談が出来る関係性が作ってけると良い。

■朝霞市福祉部長寿はつらつ課 佐藤委員

この会議が、現場のより具体的なエピソードを聞き、それを解決するための仕組み作りの場になると良い。医療・介護が必要になる前の段階での市民への普及啓発の仕組み作りが、この会議の中で出来上がると良いと思う。

連携は手段であって目的・目標ではないので、より具体的でリアルな情報共有が出来る場にしていきたい。

②意見の要約（事務局）

・歯科医師会が毎年、県のコーディネーター研修で活動のアナウンスをされているが、各職能も色々な場面でPR やアナウンスをされていくと良い。

・国の調査等で、歯科関連の課題（咀嚼、嚥下）に注目も集まっていることから今後の検討課題と考える。

・リハビリ職の地域での横の繋がりの声が上がった。

・他職種連携が進んでいるが、同職種の中での横の繋がりが職能としての課題

・行政については、この会議内容を各市の推進会議に反映してもらえると良い。

・連携は手段であって目的・目標ではないので、より具体的でリアルな情報共有が出来る場にしていきたい。

③事務局より確認事項

・任期について

・開催回数（年4回）について

・開催時間について

→変更の要望なしのため、現状維持。任期についても設定しないことで決定。

議題（2）その他

委員からの連絡事項等なし。次回開催日程について承認を得た。

***** 次回開催 *****

【日時】令和7年2月17日（月）15：30～

【場所】和光市総合福祉会館3階 会議室2

記録：奥